

再発見・牛久第三十三話

牛久市文化財保護審議委員

栗原 功くりはら いさお

作詩家・中島清治追悼編

牛久音頭・河童かっぱばやし

ひたち野うしく小学校校歌

―中島が作詩を担当した―

中島の遺稿になつて『うちあけ話(平成22年にまとめられた)』を参考資料にして、紙幅の範囲で足跡の一端を記してみた。

『牛久音頭』の作詩は昭和38年(1963年)のことであった。

かっぱ祭りは『広報うしく昭和58年9月1日号』に大野正雄町長(昭和61年6月に市制を布くに伴い初代の市長に就任)が、『子供たちにはふるさとの思いでを、おとなたちには牛久町民としての連帯と協調を高めていただき、明るく豊かな町づくりを進めよう、との願いで、はじめたものです』とある。『踊りパレード』を中心にした祭りの第1回は昭和56年8月1日・2日の2日間開催された。このとき老若男女、だれでもが気軽に、そして陽気に踊れる新たな郷土民謡『河童ばやし』の歌と踊りが創作された。作詩が中島清治・作曲は福田正であった。

『ひたち野うしく小学校』は平成22年

4月開校で、中島が校歌の作詩を担当した。

中島は、昭和6年(1931年)に稲敷郡牛久村大字新地(現新地町)の半商半農の家に生まれた。昭和20年(1945年)の8月に日本は大東亜太平洋戦争に敗れ、その翌年に中島は牛久国民学校(小学校に相当する)高等科を卒業して東京へ働きに出るが間もなく体を壊した。折も折、歌謡誌『詩人座』発行に誘われ、岡田村大字東大和田(現東大和田町)出身の作詩家板倉文雄の門下に入った。当時の世は、板倉の作詩で、唄が真木不二夫の『泣くな片妻・涙の夜汽車』作曲は岸壁の母の平川浪竜』が大流行していた。師・板倉のもとで兄弟子にあたる池田充男と出会い交流が始まった。池田が岡田村大字東端穴(現東端穴町)の生家在住のころは、師匠宅からの帰り道、毎晩のように立ち寄って、朝まで語り明かしたという。

中島の歌謡曲作詩の振り出しは、浪曲師・広沢菊春口演『姿三四郎』の主題歌『姿三四郎』で、昭和31年(1956年)の5月から6月にかけて45日間、文化放送で夜10時から放送された。昭和38年(1963年)9月にはクラウンレコード(日本クラウン株式

会社)の創立記念曲『お聞き下さい皆様よ』をつくり、これが津田耕次のデビュー曲にもなった。

その当時中島一家は、中島が詩作りに専念するため上京していた。15年の年月が流れ過ぎていたが、中島と子供の健康面で医師に田舎暮らしを勧められ、里帰りした。

ところで、『うちあけ話』によれば、作詩家の頂点に到達した池田充男は、なんでも話せる、話の分かる兄弟子であった。その池田の詩による高島忠夫・寿美花代・桑原友美唄『パパは恋人』と、中島の詩による桑原友美唄『リングはいいなア』というのがあるが、これは池田の顔で生まれたものだった。

作曲家・新井利昌

―ひたち野うしく

小学校校歌の作曲者―

ひたち野うしく小学校校歌の作曲者・新井利昌は、昭和6年(1931年)に埼玉県入間郡鶴ヶ島村(現鶴ヶ島市)で出生している。昭和28年に東洋音楽学校(現東京音楽大学)声楽科卒業と同時にカントリーバンドに加入、そこで十数年余活動した。昭和42年に作曲活動に転向して、クラウンレコード専属作曲家となる。その後フリーになり、昭和49年にミュージックトレーニンングセンターを主宰して現在に至っている。

新井が作曲した主な発売作品

- ・海峽ブルース 唄北島三郎
- ・幸せはこだまする 唄山田太郎
- ・長崎の夜はむらさき 唄瀬川瑛子
- ・あなたを待つて三年三月 唄森昌子
- ・ゆずりあい 唄石川さゆり
- ・忍ぶ雨 唄藤正樹
- ・夜霧が通せんぼ 唄尾形大作
- ・愛染かつらをもう一度 唄島津亜矢
- ・命日 唄榎芽衣子
- ・お月さんとうりやんせ 唄あさみちゆき
- ・新井がボイストレーニンングした主なる歌手名をあげてみた。
- ・村上幸子、川野夏美、山口百恵、榊原郁恵、真咲よう子、水田竜子、柏原よしえ、松居直美、市川由紀乃、永井みゆき、大石円、原田ゆかり、伊藤咲子、沖雅也、一文字辰也、香田晋、城みさ子



新井利昌の近影



在りし日の中島清治